

例9： 「中学校の思い出」

作文

上級

中等プログラム 5年

基準	A	B	C	D	E
得たレベル	-	-	7	6	-

背景

- 中等プログラム (MYP) において、小論文の書き方を学習し、生徒は課題の内容には慣れている。テーマは一週間前に発表されたので下書きを書く余裕があった。生徒は辞書を使って下書きを書いており、教師もそれに目を通している。教師は下書きの内容についてコメントを書き、文法の間違いをP、T、Kのアルファベットを使って生徒に示した。Pは助詞の間違い、Tは時制の間違い、Kは漢字の間違いである。こうしたアドバイスは実際的だと言えるのだが、アドバイスをしたということで教師は辛めの評価をしている。つまり高いレベルの日本語が要求されているということである。
- 制限時間は60分である。
- 実際に作文を書く際には、辞書や教科書は持ち込み不可としたが箇条書きの小さなメモは持ち込み可とした。
- この課題は基準C及びD内で評価してある。

<生徒についての情報>

生徒は日本国籍だが、日本に住んだことも日本の学校に行ったこともない。同生徒の教育は一貫して英語で行われており、その為、母語は日本語なのだが日本語Aの授業について行くことができなかった。同生徒の言語Aは英語で来年のIB 証書(Diploma)のプログラムでは日本語のA2を勉強するつもりである。こうした理由で中等プログラムの言語B上級を選んだ。

評価

基準C 内容と構成

最高レベル8

この作品がレベル7を得た理由は以下の通りである。

- 序論、本論、結論という小論文の構成をとっている。
- ほとんどの情報は余裕を持って書いているが、より複雑なものになると難しかったようである。
- テーマに沿った内容で理由付けができていない部分もある。
- 接続詞を上手に使っている。

以下の項目ができていれば同生徒はより高いレベルに達したと思われる。

- もっと複雑な内容を書く。

この課題は準備する時間が十分にあったという甘い条件の下で実施されているので、期待度が高く評価は厳しくしてある。

基準D 言語

最高レベル8

この作文がレベル6を得た理由は以下の通りである。

- 多種の語彙を適切に使っている。
- 基本文法は正しく使われているが、複雑な文法になると誤りがいくつか見られる。しかし理解が妨げられるほどではない。
- 漢字の使い方に優れ、作文の質を高めている。
- 読み手をはっきり意識している。言葉遣いも適切である。

以下の項目ができていれば同生徒はより高いレベルに達したと思われる。

- より複雑な文法を用いる。
- より幅広い範囲の語彙、特にもっと慣用句を用いる。

生徒回答

「中学校の思い出」 についての 作文を書いてください。〔600字〕

「中学校の思い出」

中学校に入った時は、私が一番成長したじきだと思います。いろいろなことがおき、泣いたり、笑ったりして、自分を発見し始めることができました。

私は、おさないころから友だちを作る問題はあまりありませんでした。ですから、中学生になっても、すぐに中のいい友だちを何人も作れました。しかし、私は、自分の言いたいことをすなおに口に出せない生かかですから、よく自分の中でこまっていたり、おこっていたりしました。学校からのストレスのせいで、私は家では、よく親たちとけんかをしていました。

中学生になってから体験したのは本当の愛です。おさないころは、よく男の子の友だちと結婚するなどと言っていましたが、真剣に男の子を好きになったのは、中学校に入ってからだと思います。そのおかげで、よく泣いたりしました。それで、新しい気持ちや感情を体験できました。

中学校を始めたらいらい、友だちの本当の大切さをわかるようになりました。私にとって友だちは家族のように愛するような者です。私は、友だちがいないと、生きていられません。毎日ふれあって、一人一人私の心の中に大切な場所があります。中学校にはいってから、友だちがいなかったら、どんなにつらかったかと思います。十代のじきで一番いんしょうに残る者は友だちとのかんけいと思いでしょう。

私は、中学生になって、親にあまりたよらなくなりました。自分の問題は、自分で解決し、自分の意見を持つようになりました、そして、自分の弱さや強さをよくわかり、自分の意しなどを信用することができるようになりました。私は、まちがえから学んで、いろいろな問題を自分でのりこえ、今の自分にやっとなれたと思います。